



信楽は、今放送されている朝ドラ「スカーレット」の舞台。  
街のあちこちでタヌキの焼き物が迎えてくれます。

信楽焼のタヌキは、八相縁起にちなみ、編み笠をかぶり、首をかしげながら片手に徳利、片手に通帳を持つ姿が定番となっていますが、その出で立ちにはそれぞれ以下のような意味があるそうです

- 笠：思わざる悪事災難避けるため用心常に身を守る笠
- 顔：世は広く互いに愛想よく暮らし誠をもって努めはげまん
- 目：何事も前後左右に気を配り正しく見つむる事忘れめ
- 通帖：世渡りはまず信用が第一ぞ活動常に四通八達
- 徳利：恵まれて飲食のみに事足りて徳はひそかに我身につけん
- 腹：物事は常に落ちつきさりながら決断力の大肚をもて
- 金袋：金銭の宝は自由自在なる運用をなせ
- 尾：何事も終わりは大きくしっかりと身を立てるこそ真の幸福



石田豪澄和尚の「信楽狸八相縁起」

愛嬌のある信楽焼のタヌキは、大変な縁起物でもあるのですね。(^ ^)

1月20日の日経新聞によると、ファミリーレストラン最大手のすかいらーくホールディングスは、4月までに24時間営業を廃止することを決めたとのこと。人手不足を背景に人件費が上昇する中で深夜の売り上げが減少。そこで思い切って全店の深夜営業を全廃し、ピーク時間帯に人手を集中し、営業時間を短くしながらなんとか生産性を高めようという狙いです。模索している姿が伝わってくるようです。

「働き方改革」で残業時間を削れ、休日出勤を減らせという会社は多いとは思いますが、会社として何も策がないのに下に言うだけなら、やはりどこかに無理が生じるかと思えます。まず残業手当に関係がない管理監督職にシワ寄せがいき、**管理監督職が疲弊**してしまうことも多いのではないのでしょうか。

厚生労働省が公表した「平成30年版 労働経済の分析」によると、**管理職に昇進したくない**という社員は全体の**61%**を超えています。その理由は「責任が重くなるから」が71%、「業務量が増え長時間労働になるから」が65%となっています。疲れた上司の姿を見て、自分はいまなりたくはないと思ったり、役職自体に魅力を感じなかったりして、昇進を拒否する社員が増えてきているようです。疲弊する管理職を見て見ぬフリの「**狸寝入り**」で、その下の社員の上昇志向を削ぐことになってしまっただけでは、健全な職場とはいえません。



**企業における最大の職場環境は、「上司」。**

生き活きと働く魅力ある管理職を増やすことが、職場の活性化につながると僕は思っています。

「信楽狸八相縁起」にある、「**何事も前後左右に気を配り正しく見つむる事忘れめ**」でいきたいものです。

信楽焼のタヌキは、時代とともに広く親しみが持てるよう、なんとなく憎めない今の姿になっていったそうです。そもそも江戸時代より前のタヌキは御伽草子のカチカチ山（お婆さんをだまして撲殺し、お爺さんに「婆汁」として食べさせた）にあるように、おどろおどろしい一面がイメージとしてありました。

信楽焼のタヌキのイメージも長い年月で変わっていき、信楽のシンボルとなるまで

社会に受け入れられたのだと思うと、なんか愛おしく感じてしまいます。(^^)

ん！誰か、僕とタヌキが似ているからでしょって思っていないですか？(+\_+)

残念でしたー！僕が得意なのは寝たふり（狸寝入り）じゃなく、起きているふりなんだよねー！

